

入試関係

- Q. 総合型選抜入試で、大学が実施する課題レポート試験と面接終了後に、合格不合格の通知はいただけるのでしょうか？共通テスト試験に向けての準備が変わってくるので、教えていただきたいです。
- A. 大学が実施する試験と共通テストの両者により合否判定を行いますので、合否の決定は共通テスト後となります。
- Q. 総合型選抜入試の出願、試験日、合格発表の日程は24年度と同様のスケジュールでしょうか？
- A. まもなく学生募集要項が公表されますので、創生学部サイトの「入試情報」のページ <https://create.niigata-u.ac.jp/entrance/> でご確認ください。
- Q. 総合選抜試験の面接書類審査含むには、高校の内申点も関係するのでしょうか？
- A. 新潟大学の「学部入試 採点・評価・合否判定基準」のページ <https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/criteria/> に記載のとおりです。
- Q. 前期日程の理系型と文系型では単純に得点率比較で合格者が決定されますか？それともある程度それぞれの型に対する合格者枠がありますか？(dxコースにおける理系型枠があるかなど)
- A. それぞれの型に対する枠の設定はありません。
- Q. 一般前期試験は、共通テストと個別試験のみで、小論や面接は行わないのですか？
- A. 前期日程については、共通テストと個別試験により合否判定を行います。

創生学部での学修・進路、学部の特色などについて

- Q. プログラミング等の職に就くために必要なスキルなどは学べますか？
- A. プログラミング（主に Python）の授業は創生学部でも他学部開講科目（自由科目）でも複数ありますが、大学で学べる部分はプログラミング言語の種類についても内容に関しても一部ですので、大学の講義で基礎や学び方を修得した後、自らしっかり目標を立てて主体的に取り組むことが大切です。幸い、今は書籍やネット上に優れた教材が多数あります。
- Q. 2コース化になったことで今までと一番大きく変わったところはどこですか？
- A. 創生学修コースについては、基本的に従来の創生学部の学びの形を継続します。一方、DX 共創コースは課題発見・解決や価値創造に向けて主に DX 関連技術寄りのアプローチを行います。このため、領域学修科目パッケージの選択について、創生学修コースでは21のパッケージから選択できますが、DX 共創コースでは自動的に「情報社会デザイン科学パッケージ」となります。また、データサイエンスと実践英語 (P.A.C.E.) 選択についても、データサイエンスのみとなります。ただ、2コースについては課題の発見・解決や価値創造という目標は共通でアプローチが異なる、ということですので、ゼミ活動やラボ活動など、両コースの学生が協働して学ぶ場面も多くあります。

Q. 卒業後の就職先または職種を教えてください。

A. 非常に多岐に渡ります。詳細は学部の公式ウェブサイト等をご覧ください。

Q. 課題の発見方法について教えてください。

A. 最初は社会課題、と大上段に構えずに、まずは身近な気づきや問題意識を持つように心がけることが大切です。また、普段からなぜ？ どうして？ 等と感じた疑問を軽く受け流さず、調べたり人に聞いたりする習慣を持つと良いと思います。自身の興味関心でカバーする範囲はもちろん、それを超えたなるべく広い視野で人や社会、自然を普段から観察してみてください。

Q. 創生学部に入るために今からでもできることは何ですか？

A. 普段からの勉強に加えて、上記のような意識を持って日常をお過ごしください。なお、いわゆる教科学習と、未知の課題の解決に取り組む姿勢は創生学部の学びでは大変重要です。経験のない課題を解決する上での端緒は、例えば教科書など、先人がこれまで蓄積してきた知の中にあることがほとんどです。

Q. 専門的な学部で学ぶのと創生学部でコース選択して学ぶのとでは学習内容に差が出ますか？

A. どの学部で学ぶとしても、目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢があれば、自ずと知識は深まっていきます。特に課題解決型学修を通じ、自分事として実践を伴って得られる知は定着しやすく、後々組み換えて活用できる生きた知となります。他にも論理的に考える力、データの取り扱い、資料調査能力、問題への柔軟な思考やアプローチ、協働力、コミュニケーション力、プレゼン力、困難に直面した際の姿勢など、社会で活躍するために必要な基礎力全般が身に付きますし、これらは狭い専門性を超え、これからの時代を生きる上で必要な、幅広でしなやかな専門性の獲得に向けて強力な武器となります。また、卒業後にさらに深く研究を進めたい場合には、新潟大学もしくは他大学への大学院進学も十分可能な専門知識を修得できます。

Q. 創生学部では、どの学部の事でもやりたい事を見つけた時には出来るのですか？ また、色々な専門分野がありますが、それぞれの科目に精通した教授がいるのでしょうか、それともある程度自分達で学習していくのでしょうか？

A. 3年次のプロジェクトゼミ、4年次のソリューションラボ（卒業研究）のテーマは、あくまで学生が自身の興味関心に沿って設定します。教員はサポート役で、学問体系全体を俯瞰した方向づけや論理的な思考法、データ・研究資料等の扱い等、教員個々の専門性を背景とした「研究の進め方」についての指導を行います。そのためテーマ選択の幅は、他の学部に比べて相当程度広くなります。ただ、創生学部教員でカバーできないようなより専門的な知識を必要とする場合は、理、工、農、人文、法、経済科学各学部と創生学部のパイプ役を果たす領域担当教員を通じ、他学部の教員の助言や指導を仰ぐケースもあります。

Q. 各領域パッケージの授業の濃さは主専攻の学生が習う授業とどの程度違ってくるのでしょうか？

A. 領域学修科目パッケージの授業は、創生学部のみを対象に開講されるわけではなく、原則的に他の学部で開講されている授業を履修します。たとえば法学系の専門分野を学ぶ場合は、法学部の授業を法学部の学生と一緒に履修することになります。そのため主専攻の学生と同じ内容、同じレベルの学修をすることが可能です。

Q. 創生学部の幅広い学問を学べるという点に魅力を感じています。二年生から一つのプログラムを選択するというのですが、幅広い分野を学べるのは一年生までなのですか？

A. 2年次で領域学修科目パッケージを選択した後でも、例えば自由科目はいつでも履修可能ですので、興味関心と必要性に応じて広く学ぶことができます。また、3年次のプロジェクトゼミや4年次のソリューションラボは、興味関心に従って自らが設定するテーマの下で主体的な研究活動を教員の専門に限定されずに進めていくので、教員の支援の下、幅広い視点で学びを深めていくことが可能です。

Q. 公務員志望なのですが公務員向けの学部ですか？

A. 公務員向けの学部という訳ではありません。論理的な思考、新たな課題に向かう姿勢、広い視野やコミュニケーション能力などは、公務員に限らず、広く社会から求められています。

Q. ソリューションラボの種類は、先生の数分だけあるということですか？

A. 創生学部の教員には、リテラシー担当教員と領域担当教員がありますが、現在ソリューションラボは、准教授以上のリテラシー担当教員が担当しております。

Q. 基礎ゼミは5つのテーマから4つ選ぶ、ということでしょうか？

A. 基礎ゼミについては、希望ではなく割り当てになります。半年ごとにテーマやメンバーが変わり、2年間で4テーマが割り当てられることになります。

Q. 総合型選抜で理系型で受ける場合であっても、前期試験のようにDXと創生の2つのコースに順位を付けて出願することは可能でしょうか？

A. 総合選抜は本来的には自己推薦であり、2コース順位づけての選抜は趣旨に沿わない面があるため、2つのコースに順位を付けて出願することはできません。

Q. 数学が弱くてもDX共創コースではやっていけますか？

A. 少なくとも数学が嫌いではなく、DX関連分野への興味関心と意欲があれば大丈夫です。

Q. どの時点で自分の学びたい専門分野に気づきましたか？

A. 人それぞれで、早い人も遅い人もいますが、大学の講義を受講して気づいた人や、取り組んでみたら面白くてハマった、という場合もあるようです。創生学部で様々なことに主体的に取り組んで、経験値を上げて下さい。待ちの姿勢だと、本当に興味関心のあるテーマに出会える確率は小さくなってしまいます。